



高尾山の生きものたち

アオスジアゲハ (アゲハチョウ科)



ステンドグラスのように輝く青緑色の翅。黒い翅の真ん中に透き通るような青緑色の帯があり、爽やかに見える。花にくると、翅をはばたかせながら蜜を吸い、次から次へと花を渡る。青緑色を輝かせながら舞う姿は華麗で、踊っているように見える。

翅を開いて6cmほどの大きさで、雄雌とも同色。東北南部が北限で、平地や低山の樹林、市街地の公園、街路樹付近などに見られ、高尾山にも棲む。5～9月まで年3回程度成虫が出現し、食草に卵を産む。食草は、クスノキやシロダモなどクスノキ科の木。越冬は、蛹となり、食草などで過ごす。暑い日中に、透明感のある青緑を見せて飛び姿に出会うと、涼しい森にでも入ったように感じる。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

富ちゃん 皿ちゃんの

NO.46



モミの枝

高尾山にはモミの大木が多く見られる。そしてその倒木も至る所で見ることが出来る。この倒木で幹から枝先が腐れかかって短くなり突き刺さっているのが見受けられる。モミの材そのものは白くて柔らかく、腐れ易いので卒塔婆や棺桶などに使われている。倒木となって、幹も完全に腐れてしまったところに、枝の元で幹に食いこんでいたところが、本体が腐れてしまった後に単独で抜け落ちる。モミの本体はくされやすいのに、この先の尖った円錐形になった枝だけは、いつまでたってもこのままで、時々歩道などに転がり落ちていることもある。あまり見向きもされないで蹴飛ばされるくらいが関の山の残骸である。

ある時ふと、腐りやすいモミなのに、なんでこれだけがいつまでも残っているのだろうと、疑問に思った。そこで、枝の解析を試みた。円錐形になっている枝を1cmほどの輪切りにし

てみたら、琥珀色した油分のかたまりの輪切りになった。外見とはほど遠い、きれいな琥珀色であった。これならば、いつまでも腐らないで残っている訳が理解できた。

森林管理署が営林署と呼ばれていた頃に、地域の産業祭などがあると、モミの枝を一輪挿しにして販売していたことを懐かしく思い出した。

(富)



腐った幹と枝



樹から抜け落ちた枝

枝の輪切り





森林カレッジⅡ

7月20日（土）に森林カレッジⅡを、森林ふれあい館および大平国有林で実施しました。

当日は時々小雨が降る状況で、午後からの草刈り体験が危ぶまれましたが、なんとか予定通りの進行となりました。

午前中は、東京農業大学教授の宮林茂幸先生による「森に学ぶ～森づくり、ことづくり、人づくり」と題しての講義です。「森と人との関わりにより、文化や伝統が培われ、人間形成にも役立っている。」といった内容でしたが、「森林が人間にとって、どれほど大切であるか知ることができた」「農山村を大切にすることが国の発展にもつながることがよくわかった。」など、受講生たちにとって大変好評な講義内容でした。

午後からは、受講生たちが楽しみにしている体験作業です。まずは下刈り用の大きな鎌を前にしてびっくりした様子でしたが、皆さんの鎌を研ぐ姿はなかなか堂に入ったものでした。そしていよいよ現地へ出発です。およそ15～20分で現地に到着しましたが、すでに全員が汗にまみれた状態です。休憩を挟んで下草刈りの始まりです。作業間隔を充分にとって、全員で鎌を使う姿は往年の国有林を思い出させる様子でした。作業10分前後でまた休憩を取る頃には、疲労で皆さんの顔から笑みが消えつつありましたが、おおよそ一時間で無事に作業が終了しました。

閉会式では皆さん疲労困憊の様子でしたが、その目の奥には通常の生活の中では経験できない貴重な時間を過ごせた満足感のようなものを感じることが出来ました。（磯）



毎回好評の宮林先生の講義



熱心に講義を聴く受講生



下刈りについて現地で説明



暑さと慣れない作業に汗だく

森林教室

さんいく保育園有明

7月12日（金）、江東区から「さんいく保育園有明」の園児18名と引率の先生が、高尾山登山をした後にセンターのクラフト室にやってきました。

昼食を取りひと休みした後、ヒノキの輪切りを使った「木ホルダー」作成にとりかかりました。一人一人好きな色のマジックやカラーペンを手に、輪切りにテントウムシをモチーフにした絵を描いていきます。どれも個性的で素敵な作品ができあがりました。

続いては丸太切りです。霧雨が降っていたためやむなく室内での丸太切りとなりました。職員が手を添えて手伝いながらの丸太切りでしたが、あっという間に全員が3枚ずつ作成。できあがった輪切りを手に大喜びする姿に引率の先生方も笑顔。園児からは「もっと切りたい」という声がありました。予定時刻となり終了。

短い時間でしたが、みんな満足した顔で元気に挨拶をして帰って行きました。来年もぜひ来てくださいね。（高）



かわいい「木ホルダー」が完成！



みんな上手に丸太切り

森林教室

両国幼稚園

7月22日（月）、墨田区両国幼稚園の園児66名と引率先生が、二泊三日の「夏のお泊り会」最終日に、疲れを感じさせない元気いっぱいな姿で来所し、丸太切りとクラフト（ぶんぶんごま）作りを体験しました。

所長からの挨拶に元気にお返事をした後、早速丸太切り組とぶんぶんごま作り組の2組に分かれて体験を開始しました。

丸太切りでは、初めて使う鋸、大人の手を借りてギコギコ、なかなかうまく切れません。それでも、一人2枚ずつ切り、輪切りを持って大はしゃぎしていました。

クラフト作りでは、木材の輪切りに好きな絵を描き、紐を通してぶんぶんごまのできあがり。上手に『ブーンブーン』と回す子や、なかなか回せない子などさまざま。

体験も終わり、昼食を済ませた後、素敵な笑顔で「ありがとうございました！」と挨拶し手を振りながら帰路につきました。（皿）



ひとりでもできたよ！



ぶんぶんごまを作成中

協定イベント

小下沢の溪流ジャブジャブ歩き

7月13日(土)、高尾山小下沢の溪流において、子ども14名大人14名計28名が参加し、ジャブジャブ歩きと水生生物観察を実施しました。

当日は、曇りで午後2時30分頃より小雨となり気温が低い一日でした。

旧小下沢キャンプ場まで、子どもたちにはアブラチャンの香ばしさ、ドクダミの匂い、アザミのトゲなどに五感に感じてもらいました。

また、ミミズやモリアオガエルの卵塊にも出会いました。昼食後、沢歩き用の履物や服装に着替え、ジャブジャブ歩きを開始も水温16度の冷たさに「おっかな、ひやひや」それでも慣れてきて笑顔満点です。その後、水生生物の観察ではヤゴ、カワゲラ、カゲロウ、トビケラ、ヘビトンボ、サワガニ、カジカも網にかかりました。

閉会式では、子ども達から「いろいろな生きものを見て良かった」など今日の印象に残った感想を発表して貰いました。

今回も和気あいあいとした雰囲気です事故もなく無事終了しました。

(森林インストラクター東京会 石川 雄一)



ジャブジャブ歩き踏破 やったー!



水生昆虫捕れたかなー



サワガニもいたよ



和やかな閉会式

編集後記

この季節、子どもたちに人気のカブトムシやクワガタも姿を見せています。樹液の出ている樹木があれば出会えるかも。



クワガタ(メス)

Forest通信 NO.366

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

